

79

省副官

軍務部第一課

昭和八年五月二十日

鳥海艦長宛

省副官

昭和八年五月二十日 發布

模造半葉十三行野紙 (加藤納)

五ノ廿

初代鳥海艦歴、件回答

鳥海第六七號照會首題、件別紙、用有之候
處同艦戦歴ニ關シテハ佐母保鎮守府保管、同艦艦
艇記録ニ依ルヲ適當ト認メ候條佐母保鎮守府副
官宛直接照會相成度

(別紙五葉添)

(終)

官房第三〇〇號

海軍

(8. 4. 20.)

大官官庫
8. 6. 22
記録

別紙

年	月	日	略	歴
明治十八年	三月	二日	締納	
"	三月	五日	石川島造船所製造	砲艦ヲ鳥海ト命名
"	十九年	一月廿五日	起工(キール据付)	
"	二十年	八月廿日	命名進水	
"	廿一年	五月廿日	横須賀鎮守府所属トス	
"	"	五月廿七日	竣工	
"	廿二年	五月廿八日	佐世保鎮守府所轄	航海練習艦トス
"	"	十月廿六日	警備艦トス	
"	廿三年	八月廿三日	第一種トス	
"	廿七年	四月四日	役務ヲ解ク	
"	"	五月廿五日	豫備艦トス	同日第二豫備艦ニ編入

初代鳥海艦歴

模造半葉十三行罫紙 (加藤納)

海軍

(8. 4. 20.)

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
二十二年 五月三日	二十一年 三月八日	二十一年 四月十二日	二十一年 一月廿八日	二十一年 三月廿一日	二十一年 五月二日	二十一年 八月二日
常備艦隊より除カル	第一豫備艦ト定ム	常備艦隊ニ編入	常備艦隊ヨリ除カレ同日第二豫備艦ト定ム半定員	役務ヲ解カル	警備艦兼練習艦ト定ム	常備艦隊ニ編入
						六月五日 警備艦トス
						七月十九日 常備艦隊ニ編入
						廿一年九月十日 常備艦隊ヨリ除カレ西海艦隊ニ編入
						十月十五日 西海艦隊ヨリ除カレ佐鎮警備艦トス
						廿九年三月十六日 常備艦隊ニ編入

模造半葉十三行屏紙 (加藤納)

(8. 4. 20.)

海軍

五月三日	第一隊備艦ト定メ全定員ヲ置ク
六月十日	憲兵鎮守府艦隊ニ編入
九月廿九日	常備艦隊ニ編入
三十五年 五月二十日	役務ヲ解カル
同日	第二隊備艦ト定メ全定員ヲ置ク
八月十日	常備艦隊ニ編入
八月廿五日	清國及韓國ハ警備派遣中本艦定員ハ二等看 護一人ヲ増加ス
九月廿五日	定員中ハ此際下士卒九十人ヲ増加ス
十月廿九日	同上増加員ノ内令ヲ廢ス
十一月七日	役務ヲ解カル。第二隊備艦ト定メ半定員ヲ置ク
三十五年 一月廿六日	第三隊備艦ト定メ半定員ヲ置ク
三十六年 一月廿三日	第三隊備艦ト定メ特別定員ヲ置ク

模造半葉十三行罫紙 (加藤納)

海軍

(8. 4. 20.)

六月廿二日	常備艦隊ニ編入セラル
六月廿三日	清國居留帝國臣民保護ノ為同國北部ノ派遣セラル
七月 七日	今回清國居留帝國臣民保護ノ為同國ノ派遣中本艦定員ハ二等看護一人ヲ増加ス
七月十八日	今回清國派遣中ノ營口ヲ常泊地トスルキ儀ト心得ハシ
十月廿二日	清國居留帝國臣民保護ノ任務ヲ解キ歸朝セラル
十月廿八日	第三艦隊ト定メラル
三十九年六月廿五日	第四艦隊ニ編入
八月廿日	第四艦隊ヨリ除キ警備艦トス
十月四日	旅順鎮守府司令長官ノ指揮下ニ属セシメラル
十月十二日	艦艇類別等級別表ヲ定メ二等砲艦トス
三十九年七月五日	旅順鎮守府司令長官ノ指揮下ニ属セシメラル之ヲ解カル
同日	役務ヲ解ル第ニ豫備艦ト定メ特別定員ヲ置ク
四十年四月一日	帝國軍艦籍ヨリ除カル

製造年表十三行算紙 (加藤納)

海軍

昭和四年	四月一日	佐保鎮海團 海軍 附屬島海還納上降船舟ト為ス (在操各官ノ訓令)
同日	同日	離役船舟トシ練習船ト為佐保海兵團ニ附屬セスム 留置船島海ハ離役船舟トシ其府海兵團ニ附屬セシメラ レシ處砲艦ハ一六運船半續ヲナシテ其ノ船トスル (在操各官ノ訓令)
同日	同日	離艇類別等級別表中ヨリ削除

模造半葉十三行算紙 (加藤納)

(終)

(8. 4. 20.)

海軍

80

記録

軍務局

鳥海第六七號

昭和八年五月十七日

第一編

海軍省副官殿

鳥海艦長

初代鳥海艦歴ノ件照會

初代鳥海艦歴ノ銅版ニ刻シ艦内ニ掲示致度ニ付艦歴並ニ戰歴御通知相煩度

追々

(終)

官房第二二〇號

海軍

8.5.17